

第4回 伊豆市総合計画審議会議事録

開催日時 平成28年1月26日（火）午後7時～8時30分

開催場所 市役所本庁別館大会議室

出席委員 杉山羌央会長、遠藤護副会長、青木喜代司委員、安藤孔治委員、植松真由美委員、梅原龍一委員、遠藤正壽委員、仙座夏子委員、田足井みさ子委員、出川奈央委員、永岡正人委員【11名】

欠席委員 小森泰信委員、土屋光成委員、渡邊一夫委員【3名】

伊豆市 鈴木副市長、勝呂教育長、松木市長政策監、和智永総合政策部長、伊郷総務部長、鈴木市民部長、山口健康福祉部長、鈴木産業部長、齋藤建設部長、植田会計管理者、飯田議会事務局長、森下教育部長

事務局 佐藤総合戦略課長、井上主幹、杉本主査、杉山主査、下村主任

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

（1）基本構想（案）・基本計画（案）について

【質問・意見等】

委員）資料4基本計画P10の主要事業「御幸橋の架け替え」について、架け替えをせずに耐震化を行うということか。あるいは、そのまま残しておくのか。

建設部長）御幸橋の耐震化や架け替えではなく、上流側に橋を新設する予定である。御幸橋は大正天皇の修善寺への行幸の際に整備された橋であり、残したいという意見が地元にある。歩道専用にして残すという案も出ており、現在協議中である。残す可能性もあるため「架け替え」の記述を削除した。

委員）御幸橋を残す理由としては、古いから残すということか。特殊な構造だと思うが、どういう形で残すのか。

建設部長）古いという理由だけではなく、由緒もあり地元の愛着もある。現在伊豆市では法の定めにより、2m以上の橋梁の全てについて点検を進めている。御幸橋においても一部、老朽化が進み補修しなければならない部分があるが、それらの補修をして保存をしていきたいという考えもある。修善寺温泉場に協議会のような組織があり、その中でも残してはどうかというご意見を頂いている。

会長）資料4基本計画P38重点目標4「まちへの誇りの醸成とブランド力の向上」について、個人的意見としては「醸成」という表現は文字を読むと分かるが、耳で聞いただけでは難しいように感じる。しかし、誰もがすぐ分かるような良い言葉が見つからない。同意の言葉には「熟成」があるが、「熟成」だと何かを作っているようで違和感を覚える。

委員）資料4基本計画P51主要事業に「ふるさとへの誇りを高める『ふるさと教育』の推進」とあるが、「ふるさと教育」とは具体的にどのような教育を指すのか。

教育長）ふるさと学習では、現在各小中学校において、それぞれの地域の学習を行っている。主に総合的な学習の時間の中で、例えば狩野川を中心とした生態系の調べ学習や、天城中学校では天城の山のシカや自然との共生を学ぶための鹿柵の製作、中伊豆中学校では、大見川や桜等について学びながら自然保護の取組もしている。それと合わせて、今後さらにまちへの誇りを持つためには、社会科や理科など通常の教科においても「ふるさと」について学ぶことが求められる。既に、社会科では地域学習が学習内容の中に入ってきている。そうした総合的な教育の枠組みを作り、「ふるさと」を学校の全ての教育活動を通して学んでいこうとする取組である。また、例えば伊豆市に関連する文学に親しむこと、「ふるさと」を題材にした短歌や俳句を詠む等の活動を通して「ふるさと」への愛着を育みたい。このように幅広く捉えた「教育」として進めていきたいと考えている。

会長）本日、伊豆ベロドロームで行われているアジア自転車競技選手権大会において、子どもたちが国旗を振っている様子がテレビで報道されており、非常に印象が良かった。参考までに、この内容について学校としてはどのようなお考えであるか説明して頂きたい。

教育長）1年前に観光課より、校長会の方にベロドロームにおいて自転車のアジア選手権が開催されるということで話があった。その際、できれば「1校1国運動」として出場各国についての理解を深めていきながら、実際に大会を観戦し応援をしてほしいという内容であった。単にその場で応援に行き、旗を振るだけでは応援する気持ちが入らないだろうということで、総合的な学習の時間を使い、各学校で5時間程度の学習の時間を取ってもらった。このことが、結果的には5年後の東京オリンピックへと実を結んでいくと考えている。東京オリンピック開催に向けては、伊豆市内にとどまらず、伊豆半島全体で応援できる体制作っていく必要がある。

東京都では、文科省も含めオリンピック、パラリンピック教育について方針を定め、実際に各学校でどのような取組をするかということが明示されている。伊豆市の場合は、伊豆市単体で実施する取組については、まだ決定していないが、国際理解教育も

含め、オリンピックに向け進んでいきたい。

委員) 「ふるさと教育」の話に関連して、勤務先のFMISのスタッフから疑問が出たのでお聞きしたいのだが、中学校の合併に伴い、今まで各学校で行っていたふるさと学習が、それぞれ自分の地域のことについて学習する時間が短縮されてしまうのではないか。授業はまんべんなく行わなければならないと思うが、そうした対策はお考えか。

教育長) 今、実際に天城中、中伊豆中、修善寺中学校で行っているふるさとを主にした郷土学習については、それぞれの時間帯の中で行っている。また、今まで職場体験は伊豆市外で行うことが多かったのが、見直しをする中で、例えば修善寺の生徒でも天城の温泉場や東京ラスク伊豆工場で職場体験を行うなど、伊豆市内のそれぞれの地域に、お互いが出向きながら伊豆市全体での体験ということを大事にしていきたい。そうした時間は学校が統合されたとしても確保される。

一方で、今まで天城中がやってきた内容を他の学校でもできるのか、やはり拠点が修善寺地区になると住んでいる地域の内容とは離れるのではとのご指摘であるが、伊豆市内には、土肥や中伊豆などさまざまな地域がある。その中で、生徒に選択権を持たせ、修善寺の新しい中学校へ来ても、自分の住む地域の調べ学習を行い、それら全てを持ち寄り、発表会を行うことで、今までの単体でやってきた各地域のふるさと学習を1つの場所へ集め、それぞれの地域について知る機会が生まれる。そのため、時間的な不足というものは生じないと考えている。より広い範囲、伊豆市全体について子どもたちが見ることができる、そうした学習になっていくものと考えている。

委員) 「ふるさと教育」に関連して、ちょうど金曜日に参観日があった。息子は2年生なのだが、ふるさとの土肥地区についてみんなで調べたものを発表していた。土肥でしか白ビワが成功しなかったことや、土肥の桜の本当の名前は伊豆土肥桜だということなど、子どもたちが真剣に調べて発表をする中で、親たちが知らないこともたくさん出てきた。その中で、全国でも白ビワの栽培に成功したのは土肥だけということで、自分の地域に自信を持つことができ、やはりこうした教育はとても重要であると感じた。自分が住んでいる町を大好きだと思えるような教育を先生方がしてくれていることは本当に良いことだと思う。今後も積極的に実施していくそうだが、自分たちの住む地域を誇れるような自信につながり、この教育をやって頂けたことを非常に良いことだと思う。ぜひお伝えしたいと思い発言させて頂いた。

委員) P47に「放課後児童クラブの充実」とあるが、充実というのは設備の充実か。現在、社会福祉協議会でも話をさせてもらっているが、狭い場所に子どもたちが目一杯集まっているような施設もあるため、どのように考えているのか、具体的にもし分かればお願いしたい。

事務局) ソフトとハードの両方でやっていくことが大切だと考える。人口減少が進む中で、子育て環境の整備については、各自治体でしのぎを削っているような状況にあり、伊豆市においても更に充実をしていきたいということである。例えば、ソフト面では「放課後こども教室」、ハード面では「こども園」の整備や延長保育など預けやすい環境を整備するなど、ソフト・ハード双方で検討していくことを想定している。

委員）今朝の新聞に西伊豆町が保育料・給食費を無料にするという記事が出ていた。子育て中の若い母親たちの話を聞くと、どこに住もうかと考える時に、この近隣だと長泉町が比較的子育て支援等の面では良いが、子育ての大変な時期が終わり余裕が出て、いざ家を建てようとする、今度は反対に地価が高すぎて建てられないということがあるという。そのような中で、都市計画の改革により、今後住宅地も増えるそうなので、そうした人たちを伊豆市に向かわせるようなことができないかと思っている。最初の西伊豆町の取組について何かご感想があればお願いしたい。

健康福祉部長）私も今朝の新聞を見て驚いた。というのは、当市も来年度より県内他市に例を見ない低い保育料ということ子ども子育て会議の議論の中で決定した。県内1番だと思っていたところが、全園児が対象とのことであった。また、医療費についても18歳以下は無料ということで同様に掲載されており、非常にインパクトの強い取組だと思う。現在、伊豆市においても、医療費について検討を行っているところである。

教育長）給食費については、今までの経験からも、食については各家庭が責任をもって子どもたちを育むという意識が必要ではないかと考えている。医療費も同様であるが、まずは、子どもたちをどのように育てていくかという基本的な理念が共有された上で、無償化にしていくということであるならば、それは良いと思う。しかし、一方で教育の現場、教育の立場から考えると、基本的には、食については各家庭も責任を負うべきではないかということ個人意見として持っている。

副会長）先日、文教ガーデンシティの説明会を生きいきプラザと総合会館でやられたと思うが、市民の感触はいかがか。伊豆市の今後10年先の生活環境や教育、そういうものを全て含んだ新しい方針の決定であることから、かなりの方が出席され、いろいろな意見が出たかと思う。そのあたりを聞いてから、このことに対する考えを練っていこうと思っている。2回開催された感触をお聞きしたい。

総合政策部長）文教ガーデンシティについての説明会はこれまで地権者や市民に対し、昨年からは合わせ数回実施させて頂いている。市民の意見として、修善寺駅周辺の市街化地区だけに巨額の事業費を投じ、他の地域を見捨てることになるのではないかと懸念があるとして、同様の内容の質問を複数頂いた。それについては、総合計画でも謳っているとおり、修善寺が「コンパクトタウン&ネットワーク構想」の中核であるということ説明させて頂いた。決して他の地域をないがしろにするわけではなく、他の地域においても生活の中心となる地域振興拠点を作り、それらと文教ガーデンシティをネットワークで結んでいく。それが、この構想の中核なのだということをご説明させて頂いている。また、本当にこの文教ガーデンシティを作ることによって人が戻ってくるのかというご質問も頂いているが、「文教ガーデンシティ」というのは1つのブランディングであり、単なる住宅の整備や新中学校の建設事業ではない。伊豆市全体をブランディングするために、学校、子育て関連施設、公園、住宅地を一体的に整備する事業であることを説明させて頂いており、市民には一定の理解を得られているのではないかと考えている。また、前回の市民説明会でもこのような意見交換をした結果を市民に発信する必要があるのではないかとご指摘を頂いていることから、

意見交換の過程を市民の皆さんに知って頂けるようなプロモーションや情報発信の方法について検討していきたいと考えている。

副会長）文教ガーデンシティの場所は、伊豆市の中心となるべき東西南北の交点となるころなので、そのあたりをぜひ説明願いたい。各地区の地域振興拠点の整備もあることから、文教ガーデンシティが伊豆市の要となる場所であるということを説明して、この事業を進めていって頂きたい。

市長政策監）補足させて頂きたい。市民説明会における感触として大きく2つの内容がある。

1つは取組の目的そのものがまだ十分な理解を頂いていないこと、もう1つが、新聞に90億円と出ているように、この大規模プロジェクトのコストが大きすぎる、そんなにお金をかけて本当に良いのかという不安、この2つが一番大きいと感じた。これらに対して私どもは理解を得られるよう努力をしなければならない。広報という形で、この新中学校や文教ガーデンシティの意義、そういったものが伊豆市の未来にとって大切であるということについて、しっかりと理解が得られるように努めていきたいと思っている。

会長）今のご意見で確かに重要であるということは分かるが、土肥、天城、中伊豆の住民は、自分たちのところが寂れてしまうのではないかという不安が絶対的に大きい。言葉では「ネットワーク」と表現できるが、実際のところはどのような形でネットワークにしていくのか。交通体系についても、1時間に1本程度のバス運行でネットワークと呼べるのかという話にもなるので、そのあたりについては、きめ細かく説明をして頂きたいと思う。

市長政策監）会長のご指摘のとおりである。「文教ガーデンシティ」ばかりを強調してしまうと、他の地域には光が当たらないような印象を与えてしまうため、この取組とセットで他の地域に対してはどのような取組をするのかということを引きちんと示したい。それこそが、この「コンパクトタウン&ネットワーク」の重要なところである。厳密に言えば「コンパクトタウン&ネットワーク」とは「コンパクトタウンズ&ネットワークス」と両方が複数形である。「コンパクトタウン」というのは修善寺だけを指すのではなく、それぞれの地域をコンパクトで持続可能な形にする。また、それをネットワークするというのは、ただ単に交通の面だけではなく、例えば地区の中でも人々の絆によるネットワークであるとか、お互いの助け合い、情報のネットワークなど、様々なネットワークを重層的に行っていこうという考え方であり、そのところを今後しっかりと考え、更に広報をしていきたいと思っている。

会長）実行にあたるという問題も出てくると思う。他にないようであれば、前期基本計画（案）の重点目標についての意見・質問はここで整理をしたいと思います。最後にこの計画案全体についてご意見があれば、どこでも結構なので頂きたい。

委員）基本計画の中で「創業支援」が謳われているが、今後10年以内に既存の事業者の4割程度が消滅していくという話を聞く。創業の他に、既存の事業者への支援はないか。私は建設業であるが、同業者でも後継者がいないことで廃業する会社もあれば、受注する仕事は少なくなり廃業せざるを得ない会社もある。そのような中で、市の公共事業

は伊豆市外の企業も参入できる。現在、入札契約制度改革のための委員会を立ち上げ、検討を行っているようだが、入札において市内事業所を優先的に指名するなど、何らかの形で既存事業所の支援をして頂きたい。また、入札の最低価格のラインについても国交省のレベルまで上げてほしい。

もう1点、市にお願いしたいのは「ふるさと納税制度」の推進である。我々の考えでは3～5億円程度まで達するのではないかと考える。西伊豆町では、ふるさと納税による寄付金額は約4億円にもなる。先ほど給食費無料化のお話があったが、そうした収入があるから取り組めることではないか。そのため、ふるさと納税について、もう少し市の方で考えて頂ければと思う。また、西伊豆町のふるさと納税の返礼率は5割とのことだが、伊豆市は4割程度と聞いており、1割も上回る。返礼の品物についても伊豆市内の業者を探せばさまざまな物があると思う。ぜひ西伊豆町や伊豆の国市に負けないようなふるさと納税を実施できればと思う。

会長) 貴重なご意見として、ぜひ実行に向けて検討をお願いしたい。最後にこの計画案全体を見渡して、ご意見、ご質問等が何かあればお願いしたい。ないようなので、審議を締めさせて頂く。

今回は最後の審議会となるので、本日頂いたご意見等の計画への反映については私に一任して頂くということで、審議会としてはこの計画案でよろしいか。

○全会一致で基本構想（案）・基本計画（案）が承認された。

(2) 答申（案）について

○会長より示された答申（案）が全会一致で承認された。後日29日に市長への答申を行う。

【質問・意見等】

会長) 本日が最後の審議会となるため、各委員から一言、ご意見等を頂ければありがたい。

委員) こういう計画を策定しても時代の流れがあり、10年先は全く分からないのだから、その時代に沿った計画変更はよいと思う。当面は5年計画ということだが、途中で見直しをしても結構なので、ぜひ伊豆市が活気ある市になるようにお願いしたい。

委員) 「文教ガーデンシティ」は、大変結構な計画だと思う。実現に向けては問題が山積するのではないと思うが、頑張ってやって頂ければありがたい。

委員) 今回、計画の策定に携わることができ、いろいろな角度から、また、いろいろな立場から意見を持ち寄って内容を練り、苦しみ抜きながら策定を進めているのを目の当たりにして、身の引き締まる思いであり、感激している。学校の統合についても、今までにない大きな改革であり、各地区の痛みを伴う決定でもあると思うが、まだ地域の方で、なぜ統合をしなければいけないかとかいうことが上手く伝わっていないように思う。「学校がなくなると地域が寂れる」などの意見も聞く。しかし、なぜやらなければならないのかということについて、順を追った上手な説明をして、理解を得ながら、学校の編成の方も進めていきたいと思う。

それと共に、いろいろな立場を総合的に、パズルのように1つ1つ組み合わせて、最終的に伊豆市が良い方向に進んでいけば良いと思う。

委員) 計画を作るのは大変なことだが、どちらかと言えば、これから実践していくことの方が本当に大変ではないかと思う。この計画が絵に描いた餅でなく、市民の身になり、エネルギーとなって、伊豆市が発展することを期待している。

委員) 合併して12年が経過した。合併当初は、伊豆市といっても県外の方は伊豆半島のどこかが分からないということもあったかと思う。今回、新たな都市計画の見直しやオリンピックの開催地ということで、ぜひこの計画を実行して頂き、伊豆市のブランド力を高めて頂きたいと思う。

委員) 私はIターンという形で移住してきて3年目を迎える。衣食住以外にも、人と人のつながり、地元の人や同世代の人などとのつながりといった魅力、人が面白いから伊豆にいたいなど、そういう意見を同様に移住してきた人から聞くことが多い。

最近、伊豆市に戻ってきた20代の若い人たちと多く交流する機会があるが、市役所と関わる時間が少ないという話があった。彼らなりに伊豆市を盛り上げていきたいという意見を持っているため、市と若い人たちとの話合いの場をつくっても良いのではないかと思う。

委員) 今まで地域の中でいろいろ活動してきたが、皆それぞれ自分たちの地域に対して愛情を持っている。規模が小さければ小さいほど愛着を持ちやすいと思うが、それが統合されることで愛着が薄れてしまうというのが現状だと思う。多世代でいろいろな交流ができると思うが、子育て中の人は高齢者のことに考えが及ばない。子育てが一段落した人から見れば「こども園」が何か分からないということもある。このように自分の状況にないものに対しては、全く無関心というのは寂しいと思うので、近所に昔ながらのおせっかいな人がいるというようなまちの姿が、大きな組織になっても残っているような伊豆市であってほしいと思っている。

委員) こういう場に参加させて頂き、大好きな伊豆市がもっといろいろな意味でより良い、住みやすい町になると思うと嬉しい気持ちで一杯である。

委員) 総合計画の策定に多少関わらせて頂いたということで、今後の伊豆市に対して希望を持ちたいと思う。希望を持つためには市のこの計画が、絵に描いた餅にならないように実現させていくということが非常に大事だと思う。また、これは行政の計画であるが、これを実現させていくためには市民の力が非常に必要になってくると思う。お役所仕事と言われられないような進め方で、市民目線を十分意識した計画の進め方をして頂きたいと思う。私自身も一市民として、市の計画を進めていくにあたり協力できることがあれば力を入れていきたいと考えている。

副会長) 答申のとおりでいいと思うが、「どのようなライフスタイルを提案するまちになるのか」という点だけはしっかり押さえておいてもらいたい。何でもやると言っても、日本全国、皆同じことをやるので「うちの町はこういうライフスタイルを提案する」という、ぜひそういう形でやってもらいたい。

高校生を対象としたプログラミングの勉強会をやっているが、その中で私がこの資

料を読んでいると、高校生から「スイングバイで行こう」と言われた。1 + 1は2でなく、スイングバイで行こう、そうすれば加速度的に行くよという、若い高校生らしい柔軟性を持った意見である。こうした頼もしい子どもたちが大勢いるなかで、若い人の未来を応援していくことを続けていきたい。行政もそういう、今までにない形のまちづくりをぜひやって頂きたいと思う。

会長) 合併して10年、一端を手伝わせて頂いた部分もあるが、広大な旧4市町が1つになるということで、当初の計画よりも遅れが出たり、いろいろな問題があったということも分かっている。これからは今副会長が言ったように、特色のある伊豆市を作っている頂きたい。伊豆半島の中の一市ではなくて、ぜひ特色を作って頂ければありがたいと思う。

(3) 今後の予定について

- 1月29日に杉山会長及び遠藤副会長から市長に答申書を提出。
- 基本構想については、市議会の3月定例会に上程、議決後に計画書を印刷し、3月末には計画書の配布予定。
- 計画書冊子は、審議委員を始め市議会委員や幹部職員のほか、関係行政機関、近隣市町、市内各種団体等への配布を予定しており、市民向けとしてダイジェスト版を全戸配布する予定。

4. その他

- 鈴木副市長よりお礼のあいさつ

5. 閉会

以 上